









































国指定重要文化財 建造物

昭和47年3月15日指定

旧宗元寺第一門及び石牆

沖縄県指定有形文化財 彫刻

昭和30年1月25日指定

宗元寺下馬碑

宗元寺は臨濟宗の寺で山号を靈徳山といいた。王府時代の国廟で天孫氏を
 はじめてする歴代国王の神位が安置され、冊封使が来た時には新王冊封に
 先立って先王を祀る禱祭が行われた。かつて宗元寺は国宝に指定されて
 いたが、先の火戦で正廟をはじめとする本造建築物はすべて焼失した。
 第一門及び石牆は、正面中央の切石積み三連の拱門(アーチ門)とその左右
 に延びる両掖門を備えた琉球石灰岩のあいかた積みの石垣であり、沖縄
 の石造拱門の代表的なものである。
 石門の東に立つ石碑が下馬碑で、戦前は西にも同じものがあり、国の重要美術
 品に指定されていた。表はかな書き、裏は漢文で、この碑のどこかに
 命じている。また、碑銘に「天崩直...」
 (尚清13)























































